

2013 年度 事業報告

2013 年度は、当振興会にとって昭和 38 年の設立以来 50 周年の記念すべき年を迎え、設立 50 周年記念式典及び祝賀会の開催や全国私学振興会連合会総会の開催、理事長の交代等々、年間を通じて極めて多忙な年でしたが、年度当初に定めた事業計画に基づき、私学振興事業・会館事業・教職員福利厚生事業などの諸事業を確実に実施して、私学の振興発展に寄与貢献しました。

事業の状況

〔1〕資金運用

当振興会の主な収入源である資金運用を巡る環境は、平成 20 年のリーマンショック以降厳しい状況が続いていましたが、平成 24 年末に自民党政権が誕生して以降は様相が一変して、リーマンショック以前の「円安株高」の資金運用にとって望ましい運用環境に戻りました。

その結果、当振興会の資金運用環境も大きく好転して、平成 19 年度以来久々に 3 億円の大台を超える運用収益を得ることが出来ました。

(予算…1 億 6,100 万円 実績…3 億 40 万円 予算比…186.6%)

〔2〕私学振興事業

私学振興事業は、当振興会の主たる事業であり、リーマンショック以降の厳しい収入環境にあっても、少子化の進展に伴い厳しい経営状況にある私学を支援すべく、私学関係団体が行う事業活動を資金面より支援してきました。

2013 年度も、各私学関係団体より提出された事業計画に沿って、私学教育の充実に必要な資金助成を行いました。

各私学関係団体への私学教育充実助成金は、後掲「私学教育充実助成金の推移」に記載のとおりです。

〔3〕顕彰奨学金事業

『京都私学振興会賞』及び『京都私学振興会奨学金』は、回を重ねるごとに内外関係者より高い評価を得ていますが、2013 年度も第 8 回を迎えて、26 名(件)の私学経営者・教員・学校・団体・クラブ・生徒に対して、教育研究・文化スポーツ活動・特別功労等の各部門に分けて「私学振興賞」を授賞し、学費支弁者を不慮の事故病気で亡くした 7 名の生徒に「奨学金」を給付し、1 幼稚園と 2 名の教員に『教育研究奨励金』を給付しました。

今回の受賞者のなかにはロンドンオリンピックメダリストの太田雄貴選手や村田諒太選手、100m 走 9 秒台が期待される桐生祥秀選手が含まれており、また、第 2 回受賞者の森田理香子選手が 2013 年度の女子プロゴルフ賞金女王を獲得するなど、京都私学振興会賞はますます権威のある賞として世間に認められる年となりました。

各賞の受賞者は、後掲「顕彰奨学金事業」に記載のとおりです。

[4] 会館事業

京都私学会館は、京都の私学の振興発展に資することを目的として、私学関係団体の事業活動の拠点として、また私学関係者の教育研修文化活動の場として設置された会館であり、私学関係団体に事務室を貸与すると共に、私学関係者の会議・研修・講演会等の利用の用に供しています。

当会館は、交通至便の立地条件と美しい外観と最新の設備を備えた市内随一の会館として高い評価を得ており、私学関係者の利用に限らず、私学教育の重要性を広く一般に啓蒙するため、一般企業や団体、個人の会議等の利用にも供しています。

2013年度も、私学関係者及び一般企業関係者を合わせて、年間1,094件・延35,085名もの多くの方々が利用されました。

会館の利用状況等は、後掲「会館事業」に記載のとおりです。

[5] 教職員福利厚生事業

教職員の福利厚生の充実は、私学教育の充実のため極めて重要な事業であり、当振興会では『京都私学互助会』を組織して教職員及びその家族に対する福利厚生事業を行っています。

近年、教職員の減少により互助会の運営は年々縮小傾向にありますが、平成25年度も、医療・慶弔・退会一時金等の給付事業、厚生文化事業、貸付事業等の諸事業を積極的に推進しました。

互助会事業の詳細は、後掲「京都私学互助会」に記載のとおりです。

[6] 全国私学振興会連合会総会の開催

第44回全国私学振興会連合会総会が、平成25年7月4日に京都私学会館にて開催されました。

同連合会総会は毎年各都道府県の振興会がもちまわりで担当することとなっており、当年度は当振興会が実施担当となり、全国各地の私学振興会から約50名の方々が参加され、総会議事・講演会・懇親会・視察研修会等が行われました。

[7] 設立50周年記念式典及び祝賀会の開催

当振興会設立50周年記念式典及び祝賀会を、平成25年12月10日に京都ホテルオークラにて開催しました。

当日は、京都府・京都市関係者を始め、府内の私立学校関係者、全国各都道府県私学振興会関係者等多くの来賓の出席を仰ぎ、設立50周年を祝賀するに相応しい式典・祝賀会を華やかに執り行うことが出来ました。

なお、設立50周年記念事業として、私学会館エレベーター・トイレの改修工事を施工し、設立50周年記念誌を刊行しました。

[8] 理事長の交代

当振興会山崎宏賢理事長は、平成25年6月に突然病を得られて療養に専念されていましたが、9月に至って病氣療養に専念するとして理事長職を辞任されました。

理事長辞任に伴い、同年9月30日開催の理事会において緒方正倫理事が後任理事長に選任されました。

また、田中幸雄理事が平成25年6月21日に急逝されました。山崎宏賢理事辞任に伴う後任理事には四條文子氏が、田中幸雄理事逝去に伴う後任理事には神崎清一氏が

選任されました。

〔9〕 情報の公開

公益法人は、業務運営の透明化と適正化を図るため、諸情報のディスクロージャーが要求されています。

当振興会では、公益法人に関する法律に基づき、定款・役員等報酬規程・役員名簿・予算・決算書等の書類を事務所に備えて開示するとともに、インターネット上に京都私学振興会ホームページと京都私学会館ホームページの2サイトを設けて、充実した情報を広く公開しています。

京都私学振興会

<http://www.kyt-shigakushinkoukai.jp>

京都私学会館

<http://www.kyt-shigakukaikan.or.jp>

〔10〕 理事会等の開催

理事会・評議員会・各委員会の開催状況、その他の当振興会の会務の状況は、後掲「2013年度会務一覧」に記載のとおりです。